

第 45 回運転・保守分科会議事録

1. 日 時 : 令和 3 年 1 月 27 日 (木) 9 : 30 ~ 12 : 00

2. 場 所 : 航空会館 501 号室 (Web 会議併用)

3. 出席者 : (敬称略, 順不同)

出席委員 : 山口分科会長(東京大学), 大平幹事(日本原子力発電), 小倉(ウツエバルブサービス)*,
今野(日立 GE ニュークリア・エンジン)*, 日隈(東芝エネルギーシステムズ), 松澤(三菱重工業)*,
伊藤(関西電力)*, 井上(東京電力 HD)*, 大友(東北電力)*, 佐々木(北海道電力)*,
鈴木(中部電力)*, 中村(四国電力)*, 増田(北陸電力)*, 松崎(九州電力)*, 山崎(電源開発)*,
浜田(日本原燃)*, 桐本(電力中央研究所)*, 仲井(日本原子力研究開発機構)*, 青木(東北大学)*,
木倉(東京工業大学)*, 出町(東京大学)*, 村松(東京都市大学)*, 渡辺(福井大学),
坂元(原子力安全推進協会)*, 安本(発電設備技術検査協会)*1, 井川(東日本旅客鉄道)*,
伊藤(日本エヌ・ユー・エヌ)*, 神谷(イーストカーライフ)*2, 高岡(日本通運)*, 永山(原子力安全システム研究所)*
(計 30 名)

代理出席者 : 松本(中国電力, 大谷委員代理)* (計 1 名)

欠席委員 : 長谷川(電気事業連合会), 糸井(東京大学), 内一(東北大学), 杉山(北海道電力),
高橋(東北大学), 風間(BWR 運転訓練センター), 森田(原子力発電訓練センター) (計 7 名)

説明者 : 防火管理検討会 : 家城主査(東京電力 HD), 牛島副主査(関西電力), 長谷川(東京電力 HD)
運転管理検討会 : 坂本主査(原子力安全推進協会)
緊急時対策指針検討会 : 卜部主査(東京電力 HD)
保守管理検討会 : 笠毛主査(九州電力) (計 6 名)

事務局 : 葛西, 須澤(日本電気協会) (計 2 名)

* : Web 参加 *1 : 議題 5 から参加 *2 : 議題 4 から参加

4. 配付資料 : 別紙 1 参照

5. 議 事

事務局から, 本会にて, 私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触するおそれのある活動を行わないことを確認の後, 今回は Web 併用会議で実施することを説明後, 議事が進められた。

(1) 代理出席者, 説明者, 定足数確認, 配布資料確認等

事務局より, 資料 No.45(1)-①及び資料 No.45(1)-②に基づき, 代理出席者 1 名の紹介があり, 分科会長により承認された。その後, 委員を含む説明者 6 名の紹介があった。

本日の出席委員は, 代理出席者を含め 29 名で, 会議開催条件の「委員総数(38 名)の 2/3(26 名)以上の出席」を満たしているとの報告があった。さらに, 配付資料の確認があった。

(2) 新委員及び検討会委員交代の審議

山口分科会長より, 12 月の原子力規格委員会で, 下記 1 名が交代により運転・保守分科会委員として承認

されたとの紹介があった。

- ・ 日本原燃：三浦 進（退任委員）→ 浜田 新委員（新委員）

事務局より、資料 No.45(2)-①から資料 No.45(2)-④に基づき、検討会委員の交代がないとの紹介があった。また、運転保守指針検討会については、議題 7 で扱うとの説明があった。

(3) 前回分科会議事録（案）の承認

事務局より、資料 No.45(3)-①に基づき、前回議事録（案）の説明があり、最終議事録とすることについて挙手及び Web 機能により決議し、全員賛成で承認された。

(4) 火災防護管理指針（JEAG4103）の改定の概要【中間報告 2 回目】

防火管理検討会 家城主査，牛島副主査，長谷川常時参加者より、資料 No.45(4)-①から資料 No.45(4)参考に基づき、火災防護管理指針（JEAG4103）の改定の概要の中間報告 2 回目について説明があった。

審議の結果、特に異論がなかったため、今回の中間報告に対する意見伺いに移行するかについて、挙手及び Web 機能を使用して決議の結果、全員賛成で承認された。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 基本的には国内外の情報等を確認し、前回の中間報告時から大きな反映事項は特になかったという理解で良いか。
- その通り。
- ・ 資料 No.45(4)-①3 頁目の BWR 電力情報の反映について、制御棒引抜から臨界になり、窒素ガスの封入前の点検を実施し、それから窒素ガスを封入する基本的な起動工程が前提にあると考えるが、資料 No.45(4)-②29 頁の解説 7.1 (17) の下に書いてある「a.原子炉格納容器内における火災発生時の消火活動手順」の考えに至った経緯を教えてください。
- BWR の原子炉格納容器に関して、プラント運転中は窒素封入されているが、封入されていない状態においては火災が発生した場合の消火手順を示さなくてはならない。その様に消火手順をしっかりと考えることが必要となるため、このような記載になっている。実際の細かい手順は各事業者が定めるものである。
- ・ 資料 No.45(4)-①の 3 頁の図を見て解釈したのは、制御棒を引き抜くと原子炉内で水素とかが発生しているので、何らかの理由で漏えいする。あるいは原子炉自身の温度が上がっている状態なので、このような状態において、可燃する状況でないということを確認するために、この時期に原子炉格納容器内を点検するのか。
- この時期に原子炉格納容器の点検を実施するのは、原子炉が定格圧力になった状態で、原子炉格納容器に異常が無いことを確認する事を目的としている。
- 少し補足すると、PWR 電力の情報で先行して格納容器内の消火手順の策定について、前回中間報告で説明している。今回、新規制基準を踏まえて、区画をプラントの中で設定し、感知設備、消火設備のを設置している。だが、原子炉格納容器の中は自動式の消火設備の対応とできないため、その部分については運用面での対応を行うこととなった。PWR プラントは、BWR とは異なり、窒素が封入されていないので、プラント運転中の環境下でも何らかの火災があり、原子炉格納容器内に入ることができるかと判断したなら、中に入り消火活動を行うことを定めるという取り決めをした。その部分を先行して運転しているプラントでは手順という形で制定してきたので、その部分を BWR でも紐づけた形。BWR の場合には、窒素ガスが封入され

ており火災にはなりえないが、窒素が封入される前段階については適用される。

- 特に異論がなかったため、今回の中間報告の意見伺いを1月28日から2月26日12時までの約1ヶ月間行うこと及び、3月度に開催される原子力規格委員会にも中間報告を行い、その意見も踏まえて具体的な改定作業を進めることについて、挙手及びWeb機能により決議の結果、全員賛成で承認された。

(5) JEAC4804 原子力発電所運転責任者の判定に係る規程の原子力規格委員会書面投票結果及び対応方針【報告】
運転管理検討会 坂元主査より、資料No.45(5)-①から資料No.45(5)参考に基づき、JEAC4804 原子力発電所運転責任者の判定に係る規程の原子力規格委員会書面投票結果及び対応方針について報告があった。

今回の公衆審査前の修正に関しては、編集上の修正ということで、原子力規格委員会3役に確認の後、公衆審査に入ることで承認された。

主な説明は以下のとおり。

- ・ 原子力規格委員会書面投票でのご意見が3件あり、何れも対応を完了している。
- ・ 公衆審査前に検討会による規格確認で気付き項目があり、4頁に『h)関係法令の改廃及び発電用原子炉設置者から提供を受けた保安規定等の変更を判定業務に反映すること。』を追加したところ以外は、編集上の修正となっているが、先ほどの部分についても、基本的に編集上の修正と考えるが、それで良いかを分科会長に判断してほしいと考える。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 先程の分科会長に編集上の修正か判断してほしい部分は、編集上の修正でない場合にはどのような対応となるのか。
- もう一度運転・保守分科会及び原子力規格委員会で再審議となる。
- ・ 基本的に、規程の中身が変わるわけではないので、編集上の修正ということで良いかと考えるが、運転管理検討会主査と運転・保守分科会長で調整後に、原子力規格委員会3役の確認を行うこととする。

- 特に異論がなかったため、今回の公衆審査前の修正に関して編集上の修正ということで、原子力規格委員会3役に確認後、公衆審査に移行することについて決議の結果、全員賛成で承認された。

(6) JEAC4209/JEAG4210「原子力発電所の保守管理規程/指針」公衆審査結果、少数意見対応方針【報告】
保守管理検討会 笠毛主査及び事務局より、資料No.45(6)-①から資料No.45(6)参考に基づき、JEAC4209/JEAG4210「原子力発電所の保守管理規程/指針」公衆審査結果、少数意見対応方針について報告があった。

主な説明は以下のとおり。

- ・ JEAC4209/JEAG4210については、1月1日に公衆審査を終了し、資料請求及びご意見は特になかった。
- ・ 原子力規格委員会書面投票での参考意見及び保留意見については、公衆審査対応に合わせて対応することとしていたので、この少数意見対応について説明する。

- ・ 保留取り下げ以外の意見については、次回改定時に対応することにした。
- ・ 第62回基本方針策定タスクで、取り下げられず残った少数意見についてどの様に対応するかについて審議され、原子力規格委員会の規格策定の手引きが改定されている。結論としては、少数意見は公開することができるという改定になっており、必ず公開しなければならないではないことから、現在、事務局内で検討中である。
- ・ JEAC4111においては、原子力規格委員会委員から反対意見があったため、現在公開準備を進めている。
- ・ JEAC4209/JEAG4210については、少数意見ではあるが反対意見でなく、保留意見の公開となると初事例になる。公開する場合には、分科会が検討し原子力規格委員会3役に確認後に公開する運用である。
- ・ 規格発刊の際には反対意見等の取り下げられなかった意見等をホームページに公開するということになるということで、今回は取り下げられなかった意見を公開することになるが、掲載される内容について公衆が理解できるかの観点でも確認したい。分科会委員から、検討会の対応方針、ホームページへの掲載内容がこれで良いかということについて意見を聞きたい。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 今回掲載されるのは、反対意見と、保留意見だと説明していたが、もう一つの意見の参考意見というのは含まれないのか。あるいは意見の考え方をどのような尺度で切っているのか。反対意見だけで良いのではないかという意見もあると思う。
- 規格作成の手引きには、「規格制改定時での分科会、原子力規格委員会の審議における少数意見、書面投票において取り下げられなかった反対意見及びそれらへの対応等については、透明性向上の観点から、原子力規格委員会のウェブサイト等に掲載することができる。」と記載されている。なので、厳格な反対意見については、掲載できることになっているが、賛成に対する意見等に関して、作成の手引き上直接見えないが、「等」として扱うのか扱わないのかについては、透明性の確保の観点から議論が必要になると考える。今回初めてのケースなので、事務局内でも検討中であり最終的な判断は原子力規格委員会3役の確認結果に委ねられる。よって、回答になっていないかもしれないが保留意見・参考意見については、原子力規格委員会3役の判断だと考えられるが、今は検討中である。
- 趣旨としては、最終的な規格だけが出るが、その時に審議の中でこのような反対意見もあったというのを規格委員会の中でしっかりと議論しているということを、電気協会と原子力規格委員会として公開しても良いという趣旨であれば、参考意見は公開の必要はない。ただ、反対意見等とあるので、今回保留意見も含めて、ホームページ公開を、分科会として提案している。最終的には原子力規格委員会で最終判断だと考える。
- ・ 今回のJEAC4209/JEAG4210では、保留意見を含めても大した数ではないので、2から3頁ぐらいで終わっている。今後、反対意見はそんなに多くはないと思うが、保留意見が大量に出てきた時には、数十頁にもなる場合も考えられるのが気になる。
- 今回初めてのケースなので、分科会として保留意見についてこのような扱いをしたが、最終的には原子力規格委員会で判断するという事で理解してもらいたい。
- ・ 資料46(6)-③-1と資料46(6)-③-2の公開資料で2番目の意見の所の回答の所で、「今回追加でいただいた参考意見も踏まえて」とすると、公開版には参考意見が入らないことで内容が分からなくなるため、記載の見直しが必要。
- 拝承。
- ・ 公開におけるクレジットは原子力規格委員会と考えて良いか。

- その通りであり、ホームページは全て原子力規格委員会として公開されている。
- ・ 項目は賛成その他意見となっているが、保留意見に直すのか。それ以外の意見はそのまま記載して、回答は原子力規格委員会として回答するというので、良いかと考える。
 - ・ 資料 46(6)-③-1 の「ご意見原文の「NC-7」を、ご意見No.4 から「MC-7」と受け止め回答しております。」は、「ご意見 No.4 が」分からないので削除が良い。
 - ・ 資料 46(6)-③-2 の「(ご意見原文の「JEAG4812」を、『JEAC4209 ご意見No.5』から「JEAG4612」と受け止め回答しております。)」も「ご意見 No.5」を削除で良い。
- 拝承。
- ・ 意見が出尽くしたと考えるので、事務局から今後の手続きの説明願う。
- JEAC4209/JEAG4210 共に公衆審査を終えたということで、発刊準備に移行している。現在は、規格精度向上のためにチェック類を実施中であり、公衆審査対応終了後から発刊までの、出版準備（校閲）の範疇となる「編集上の修正」については、分科会長に判断を一任、修正内容について委員に通知いたします。

(7) 規格（JEAG）と検討会に係る規約並びに JEAG4803-1999「軽水型原子力発電所の運転保守指針」について
【意見交流会 3 回目】

事務局より、資料 No.45(7)-①から資料 No.4(7)参考 2 に基づき、規格（JEAG）と検討会に係る規約並びに JEAG4803-1999「軽水型原子力発電所の運転保守指針」について説明があった。

JEAG4803 に関するタスク設置について決議の結果、賛成多数で承認された。

主な説明は以下のとおり。

- ・ JEAG4803-1999「軽水型原子力発電所の運転保守指針」については、20 年近く経っているが、改定作業も行われていない。運転指針検討会というものが休眠状態となっている。それを踏まえ第 41 回運転・保守分科会でこの取り扱いについて議論を行った。
- ・ 対応方針として、皆様から意見を伺いと考える。分科会規約第 13 条に従い、運転保守指針検討会は廃止し、分科会としては指針を維持するとの前回決議結果を踏まえ、分科会規約 11 条に基づきタスクグループを設置したい。
- ・ タスクグループの開催方針としては、分科会開催の前後に実施し、タスク構成としては主査及び委員で構成する。その人選は基本的に分科会長が任命するが、まずは分科会委員又は検討会委員への自薦・他薦を募集する。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 分科会でタスクというものは例が少ないが、原子力規格委員会では基本方針策定タスクのがあり、今回事務局で提案があったポイントは、まずは検討会を廃止し、タスクグループを設置する。タスクグループの委員は、分科会長が任命するが、分科会委員及び検討会委員が、自薦、他薦により推薦する。タスクの開催頻度は、四半期ごとに行われる分科会の時に開催を行い、2021 年度よりタスクの中で検討を進めていき、最終的に方向性を決めていくことになる。
- ・ 今日の方向性は良いと感じた。その上で、このタスクグループでどのようなことを議論するのが見えない感じがするので、この機会に、JEAC4209 の全体についての問題点を整理するのが良いかと考える。運転中

保全もそうであるし、OM規格もそうであるし、保全の中心になるものが多くあるので、保全の体系化が進んでいる米国を視野に入れながら、どのような課題があるのかということを引きと整理した上で、ニーズに基づいて、重要度の高いものから取り組んでいく流れにすると、非常に良いと考える。その様にすれば JEAC4209 も非常に良い方向となると考える。

- 基本的には今の意見の通り進めるが、第44回分科会の議事録の6頁から8頁の3頁に渡って、色々な意見が書いてあるが、タスクでもここで頂いた意見を踏まえて、今の指針の内容を分析・精査することが重要であると考え、議事録の中に貴重な意見が書いてあるし、分科会委員の関心の高さも伝わってくるので、これらの意見を踏まえて進めていきたいと考える。幹事の方からポイントの説明をしてもらいたい。
- 今の御意見はもう少し検討したいと考えるが、JEAG4803 は今回の事務局提案の通りと考えるが、JEAC4209 とどう関連付けるかが、大きな課題になってくると思われる。それによって、JEAC4209 をどの様に変えていくかということ、検討するのが最終的なミッションになるかも知れない。JEAG4803 に特化して見ると、当時の電事連の色々な検査項目も定義されているが、今の事業者の検査というのは、新検査制度が始まり、自分たちで検査項目を決めても良い形になっている。それが規制側から見た時に十分か確認されるが、一義的に事業者が検査の中身を決めても良いが、その指針となるものが JEAG4803 であり、最終版を確認し検査の方向性を示す道標になる可能性がある。そのため改定する必要があるかを検討するミッションもあり得る。また、JEAC4209 としても JEAG4803 をどの様に扱うかという事を、このタスクで検討するのもミッションもあり得る。それらを考えた上で JEAG4803 をアップデートするか、JEAC4209 に合体させるのか、あるいは、他の枠組みを考えるのか、規格構成のたたき台程度を考え、分科会で検討していくドラフトを作成することがポイントだと考える。それを基に、分科会で具体的な検討会を立ち上げ、考えていく事になると考えている。
- ・ この指針には、長く係ってきたが、今回事務局から分科会タスクを作るということで方向性が示されたので、その方向で良いかと考えている。時系列的にいうと、JEAG4803 は、1991年に作られ、2007年に JEAG4210 が作成されたので、JEAGの保守に関する指針としては、JEAG4803の方が先である。2007年に JEAG4210 を新たに作る時に、JEAG4803 をどうしようかと悩んだ経緯がある。JEAG4210 は、JEAC4209 を補完する位置付けで検討した。ただ、今の JEAC4209 を見ても分かるように、JEAC4111 とか、あるいは構造分科会の規格、指針等も読み込んでいるので、電気協会の規格、指針というのはお互いに補完しあうような流れもあるので、最終的には JEAG4210 に JEAG4803 を組み込むということになると考える。
- ・ この機会に少し時間をかけて検討するということなので、考えて頂きたい。運転・保守で安全設備の信頼性を確保していくということがこの規格・指針の基本的な目的と思うが、それへの要求事項は福島事故以後、根本的に変わっている面があると考えられる。1990年代、アクシデントマネージメントを取入れたか、入れないかの頃はリスク評価を行った時の炉心損傷頻度は 10^{-4} から 10^{-5} ぐらいの範囲になり、しっかりと運転保守を行っている事業者は、 10^{-5} ぐらいになるであろうと考えられていた。ところが、福島事故を経験し、何十年かの間には事故が起きうるということ一度思い知らされたのだと思う。それを経て、炉心損傷後の格納容器の条件付き損傷確率はそれほど低くは無いことを考えると、 10^{-6} ぐらいに炉心損傷頻度を持つていきたいということになる。そうした時に、保守で安全機能の信頼性を確保する際の基本的な考え方や方法論が変わっても不自然ではないと考える。その様なことも含めて考えていった方が良い。日本では米国に比べて、サーバランス試験で動作を確認していけば良いということよりも、ハード的にポンプの中まで綺麗になっているかというようなことを重視してきたと思う。しかし今後、広く見る・人間的なもの・ソフトなものも見ないといけないということにすると、作業量が増えるため、省略できることは省略するという様な全

体としての信頼性を確保していく規格を作成していく必要があるのではないか。バランスを取り、必要な所は丁寧に、そうでない所は省略するような、配分をし直すのも必要かと考えるので、そういった所も含めて検討を進めてもらいたい。

- ・ 本件決議事項になっているので決議を取りたいと考える。
- 特に異論がなかったため、タスクの設置について、挙手及びWeb機能により決議の結果、30名の賛成および1名の反対で出席委員(31名)の4/5以上の賛成により承認された。

(8) 運転・保守分科会の2021年度活動計画について【審議】

各検討会主査より、資料 No.45(8)-①から資料 No.4(8)参考2に基づき、運転・保守分科会の2021年度活動計画について説明があった。

運転・保守分科会の2021年度活動計画について、今回の意見を反映したものを、原子力規格委員会に上程することについて挙手及びWeb機能により決議の結果、全員賛成で承認された。

主な説明は以下のとおり。

- ・ 緊急時対策指針検討会では、2020年度実績として、JEAG4102を12月25日に発刊した。2021年度活動計画としては、各原子力事業者での訓練の反映等を検討する。中長期的な計画としては、PWR特重EALのNRA-ATENA間での議論結果を検討する。
- ・ 防火管理検討会では、2020年度実績として、JEAG4103の改定案の中間報告を原子力規格委員会で開催した。2021年度活動計画としては、JEAG4103の原子力規格委員会への上程を実施する。中長期的な計画としては、JEAG4607の技術評価が実施された場合には、運用の反映事項について検討を行う。
- ・ 保守管理検討会では、2020年度実績として、JEAC4209/JEAG4210を原子力規格委員会に上程及び原子力学会の長期運転体系検討タスクに参加協力をした。中長期的な計画としては、長期運転体系検討タスクを確認し、必要に応じて改定への反映を検討する。
- ・ JEAG4803の作成にかかわった運転保守指針検討会は廃止し、分科会で本指針の維持をすると共に、2021年度以降の計画としては、分科会にタスクを設置し、指針の扱い検討を進める。
- ・ 運転管理検討会では、2020年度活動実績として、JEAC4804に関しては年度内に公衆審査までを完了する。2021年度活動計画としてはJEAC4804に関しては、上期に発刊を行う。JEAG4802に関しては、新検査制度を踏まえた運転員の教育・訓練に関する検討、JEAC4805に関しては下期に原子力規格委員会への中間報告を行う。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ JEAG4210の所だが、2020年度の活動実績の所で、原子力規格委員会上程までしか書いておらず、その後の公衆審査とかが書いてないし、発刊予定の記載も必要ではないか。
- 指摘の通り事実関係を確認し修正する。発刊については2020年度中に実施の予定である。
- ・ JEAG4802とJEAC4804なのだが、2021年度活動計画の一番下の所で、特定重大事故対策施設の運用開始を踏まえとあるが、川内、高浜などプラントを指定した方が良いのではないか。
- 拝承。

- 特に異論がなかったので、運転・保守分科会の2021年度活動計画について、今回の意見を反映し、原子力規格委員会に上程することについて決議し、全員賛成で承認された。

(9) 令和2年度功労賞推薦について【報告】

分科会長及び事務局より、資料 No.45(9)-①及び資料 No.45(9)-②に基づき、令和2年度功労賞推薦について報告があった。

主な説明は以下のとおり。

- ・ 新規基準及び新検査制度が進む中、運転・保守分科会の規格も色々な成果が出たと考える。このような中で、分科会として、緊急時対策指針検討会のト部主査を令和2年度の功労者として推薦した。
- ・ 功労賞のスケジュールは、原子力規格委員会ですでに承認されており、3月中旬に受賞者を決定し、6月下旬の第78回原子力規格委員会で表彰式を行う予定である。

(10) その他

1) 分科会委員の再任について

事務局より、資料 No.45(10)-①及び資料 No.45(10)-①参考に基き、分科会委員の再任について説明があった。

主な説明は以下のとおり。

- ・ 分科会委員の任期は2年ということで規約に定められている。ただし再任は可能で、1ヶ月前までに継続するか否かを原子力規格委員会委員長に届けなければならない。
- ・ 資料 No.49(10)-①の名簿で左の欄に再任候補と書かれているのが、3月いっぱいまで満期となる委員で、再任を意向されない委員については2月5日までに事務局に連絡してほしい。連絡がない場合には、再任の意思があると判断する。

2) ピアレビューホスト組織の対象規格と体制について

事務局より、資料 No.45(10)-②及び資料 No.45(10)-②参考に基き、ピアレビューホスト組織の対象規格と体制について説明があった。

3) 次回運転・保守分科会について

次回運転・保守分科会は、JEAG4103については分科会への上程、JEAC4804については公衆審査結果を受けての発刊準備状況、JEAC4209/JEAG4210については発刊状況、を議論することを目的として、5月中旬頃を予定。開催案内は日程調整後、事務局から送付する。

以上

資料 No.45(1)-①	原子力規格委員会 運転・保守分科会委員名簿 (案)
資料 No.45(1)-②	210127 検討会名簿 (案)
資料 No.45(2)-①	原子力規格委員会 運転・保守分科会 運転管理検討会委員名簿 (変更無し)
資料 No.45(2)-②	原子力規格委員会 運転・保守分科会 緊急時対策指針検討会委員名簿 (変更無し)
資料 No.45(2)-③	原子力規格委員会 運転・保守分科会 保守管理検討会委員名簿 (主査交代)
資料 No.45(2)-④	原子力規格委員会 運転・保守分科会 防火管理検討会委員名簿 (常時参加者追加し)
資料 No.45(3)-①	第 44 回運転・保守分科会議事録 (案)
資料 No.45(3)-②	JEAC4804 「原子力発電所運転責任者の判定に係る規程」改定案に関する書面投票の結果について
資料 No.45(3)-③	JEAG4102-2020 「原子力発電所の緊急時対策指針」発刊について
資料 No.45(3)参考 1	第 76-1 原子力規格委員会議事録 (案)
資料 No.45(3)参考 2	原子力規格委員会 No.76-1-1 JEAC4804 「原子力発電所運転責任者の判定に係る規程」改定案に関する書面投票の結果について
資料 No.45(4)-①	火災防護管理指針 (JEAG-4103) の改定の概要について (中間報告 2)
資料 No.45(4)-②	JEAG4103-2009 改定作業 -JEAG4103-2009 と改定案との比較表—
資料 No.45(4)-③	JEAG4103 改定案 (原子力規格委員会 中間報告) における御意見対応リスト
資料 No.45(4)-④	規格制改定時に対象とした国内外の最新知見とその反映状況
資料 No.45(4)参考	防火管理検討会での JEAG 4103 改定案へのコメント管理
資料 No.45(5)-①	JEAC4804 改定案 ((面投票)に関する原子力規格委員会等から頂いた御意見等
資料 No.45(5)-②	「JEAC4804-202X」分科会審議と原子力規格委員会審議 比較表
資料 No.45(5)-③	原子力発電所運転責任者の判定に係る規程 JEAC 4804 - 202 X 【公衆審査版】
資料 No.45(5)参考	原子力発電所運転責任者の判定に係る規程 (JEAC-4804) の改定について
資料 No.45(6)-①	JEAC4209-20XX/JEAG4210 「原子力発電所の保守管理規程/指針」改定案公衆審査結果
資料 No.45(6)-②-1	JEAC4209 改定案 (最終報告) に関する原子力規格委員会から頂いた意見等
資料 No.45(6)-②-2	JEAG4210 改定案 (最終報告) に関する原子力規格委員会から頂いた意見等
資料 No.45(6)-③-1	JEAC4209-2021 「原子力発電所の保守管理規程」改定案に関する書面投票で撤回されなかったその他意見と回答
資料 No.45(6)-③-2	JEAG4210-2021 「原子力発電所の保守管理指針」改定案に関する書面投票で撤回されなかったその他意見と回答
資料 No.45(6)参考	反対意見等の公開方法の変更について (規格作成手引き改定審議)
資料 No.45(7)-①	運転・保守分科会(10/28)「JEAG4803-1999 と運転保守指針検討会」決議の対応方針 (案)
資料 No.45(7)参考 1	規格(JEAG)と検討会に係わる規約並びに「軽水型原子力発電所の運転保守指針 (JEAG4803-1999)」について (案)
資料 No.45(7)参考 2	(まとめ) JEAG4803 と運転保守指針検討会へのご意見
資料 No.45(8)-①	原子力規格委員会 運転・保守分科会 2021 年度活動計画 (案)
資料 No.45(8)-②	運転・保守分科会 規格策定活動 2020 年度-2021 年度比較
資料 No.45(8)参考 1	原子力規格委員会 運転・保守分科会 2020 年度活動計画 (案)
資料 No.45(8)参考 2	原子力規格委員会 活動の基本方針の改定について 2020 年 12 月 3 日 原子力規格委員会事務局
資料 No.45(9)-①	令和 2 年度 原子力規格委員会功労賞 申請・選考スケジュール (案)
資料 No.45(9)-②	原子力規格委員会 功労賞 推薦申請書
資料 No.45(10)-①	原子力規格委員会 運転・保守分科会委員名簿 (再任意思確認)
資料 No.45(10)-①参考	原子力規格委員会規約 (分科会規約抜粋)
資料 No.45(10)-②	原子力関連学協会規格類協議会ピアレビュー対応について
資料 No.45(10)-②参考	第 68 回基本方針策定タスク 議事録 (案)